

大阪府立長野北高等学校
平成28年1月13日

平成27年度がんの教育総合支援事業
【がん専門医との意見交換会】

「がん検診のすすめ」

近畿大学医学部附属病院
臨床研究センター 腫瘍内科
福岡 和也

がん対策基本法の概要

基本的施策

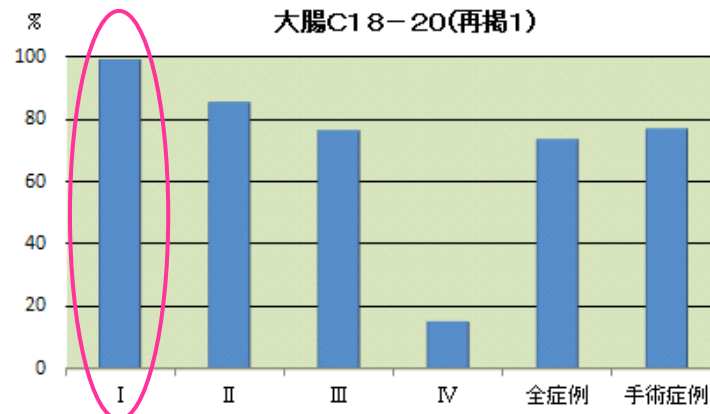
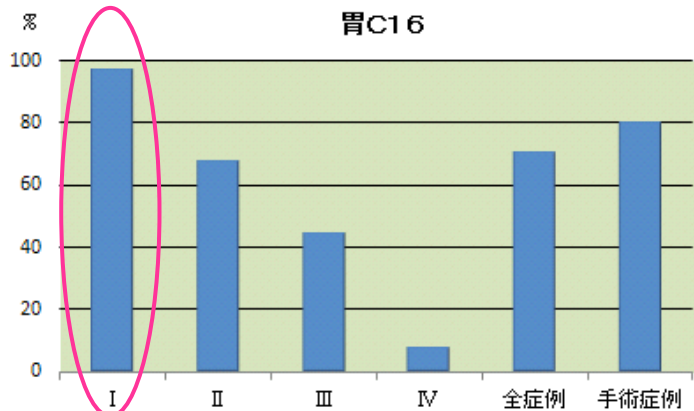
1. がん**予防**および**早期発見**の推進
 - がんの**予防**の推進
 - **がん検診**の質の向上と推進
2. がん医療の均てん化の促進
3. がん研究の推進

平成19年4月1日施行

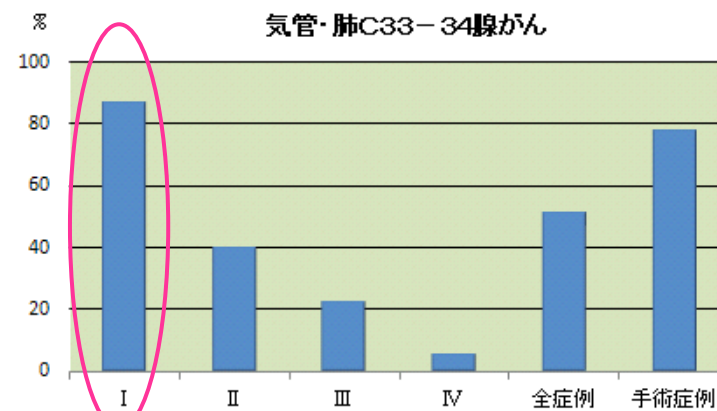
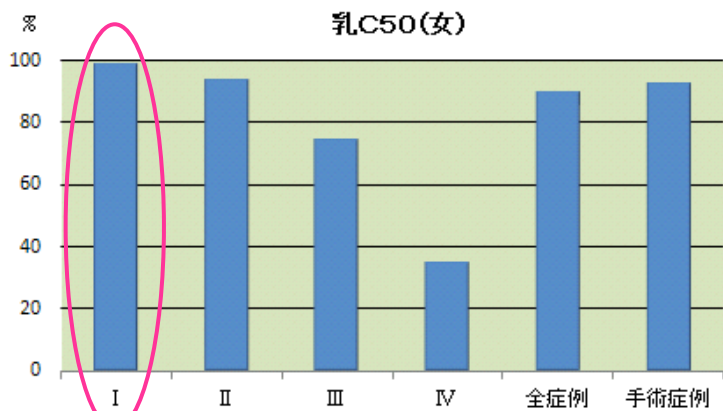
がん検診の目的

- がんを**早期に発見**し、適切な治療を行うことでがんによる**死亡を減少**させること。
- 単に多くのがんを見つけることが、目的ではない。

早期発見の重要性



再掲1 結腸がん、直腸がんを合わせて大腸がんとした。



検診の対象は症状のない人

無症状のうちに「がん」を早期発見し治療することが、がんによる死亡を減少させることにつながる。

検診では

無症状で健康な人が対象なので、見つかるのはほとんど早期がん

早期がん

過剰診断がん

症状なし



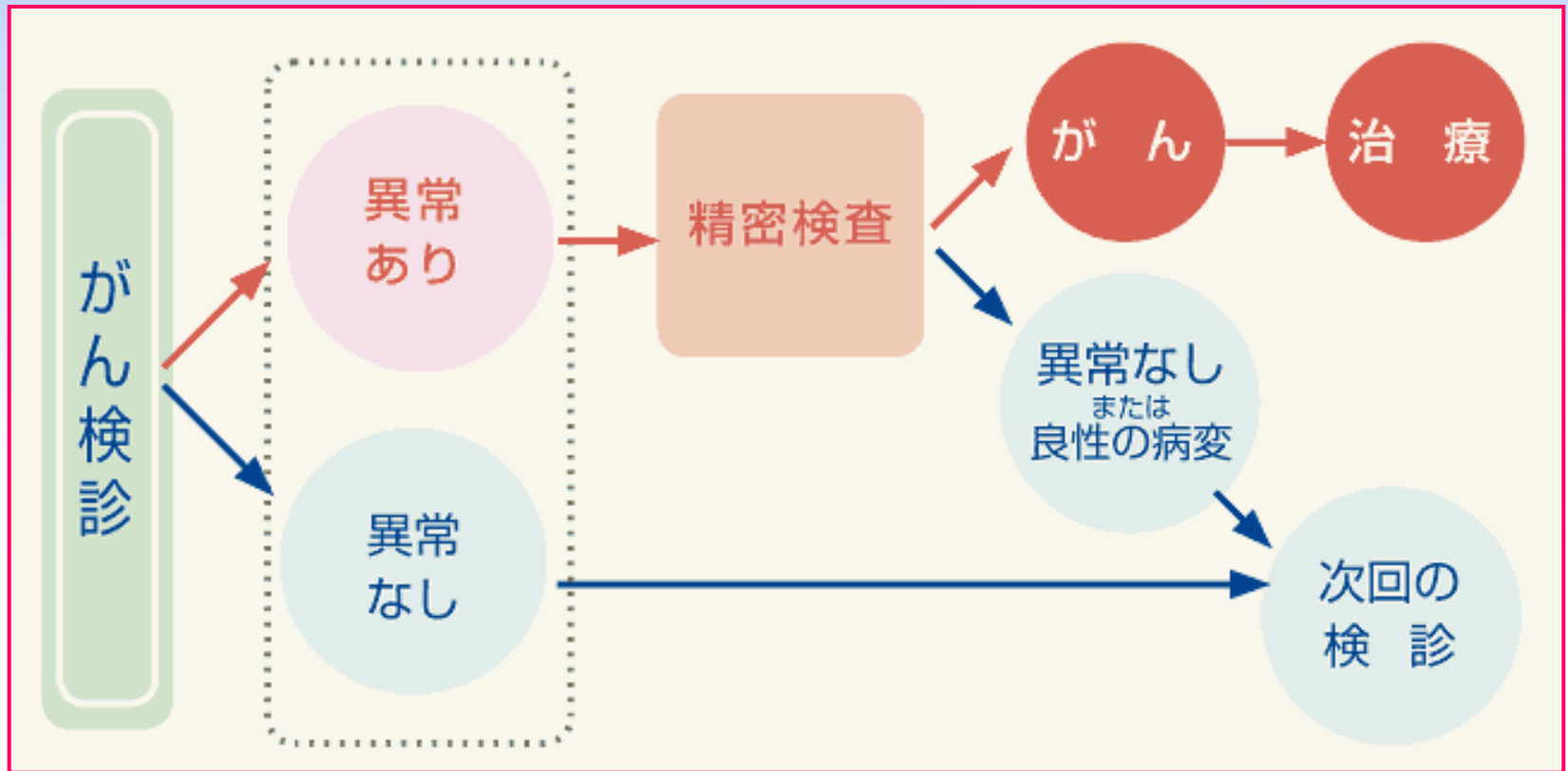
がん検診の基本条件

- がんにかかっている人が多く、死亡の重大な原因であること
- がん検診を行うことで、そのがんによる死亡が確実に減少すること
- 安全な検査方法があること
- 検査の精度がある程度高いこと
- 発見されたがんに対する治療法があること
- 利益が不利益を上回ること

がん検診の不利益

- がんの見逃し（偽陰性）
- がんでないものをがん、もしくは、がんの疑いと判断（疑陽性）
 - 不要な検査や治療
- 検査に伴う偶発症
- 検診受診者への心理的影響（不安）

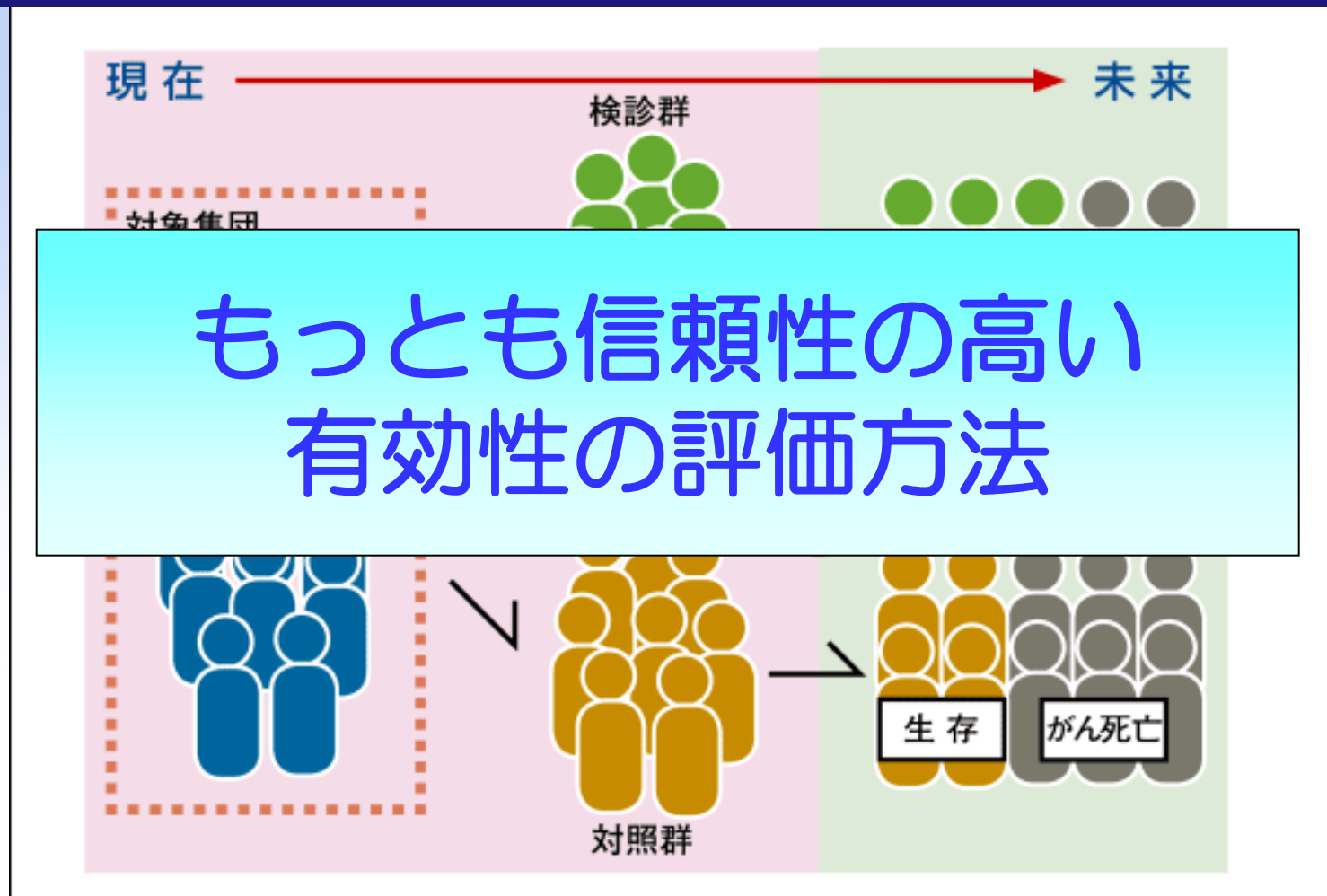
がん検診の流れ



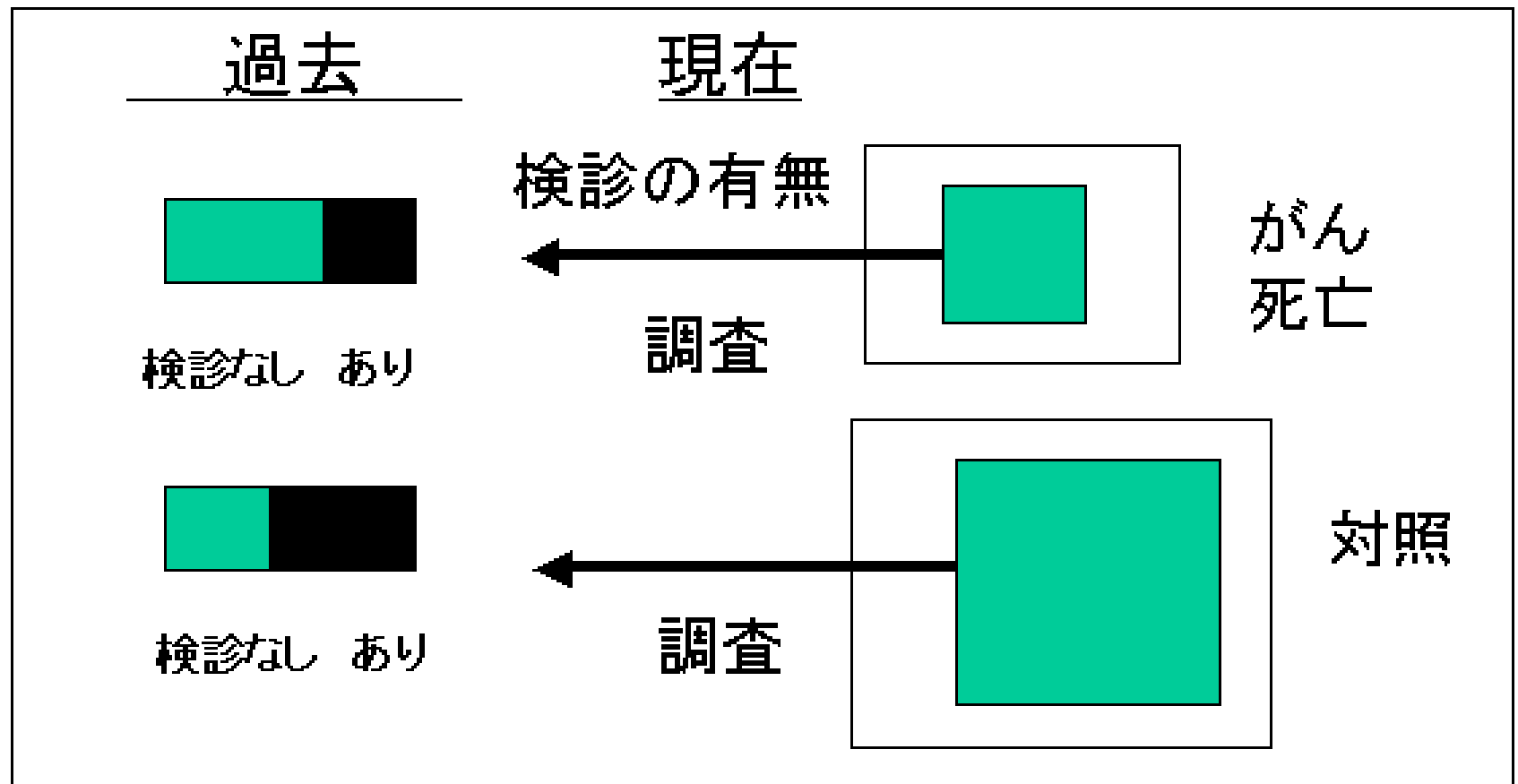
がん検診の有効性評価

- がん検診の有効性は、**死亡率減少**効果を証明することで評価
- 「発見率」や「生存率」ではダメ
 - 公平な視点を欠く
 - 「偏り」が紛れ込む可能性

無作為化比較対照試験-前向き-



症例対照研究-後向き-



セルフ・セレクション・バイアスが紛れ込む可能性あり 検診受診者は健康増進・保持に関心高い人が多く、非受診者に比べて対象疾患の罹患率や死亡率が低い可能性もある

我が国において科学的に有効性が証明されているがん検診

有効で、かつデメリットの少ないがん検診

対象臓器	推奨されている検診方法	対象と適切な受診間隔
胃	胃X線	40歳以上の男女・年に1回
子宮頸部	細胞診	20歳以上の女性・2年に1回
乳房	視触診とマンモグラフィ(乳房X線)の併用	40歳以上の女性・2年に1回
肺	胸部X線と ^{かくたん} 喀痰検査(喫煙者のみ)の併用	40歳以上の男女・年に1回
大腸	便潜血検査	40歳以上の男女・年に1回

部位別がん検診の実際

■ 胃がん

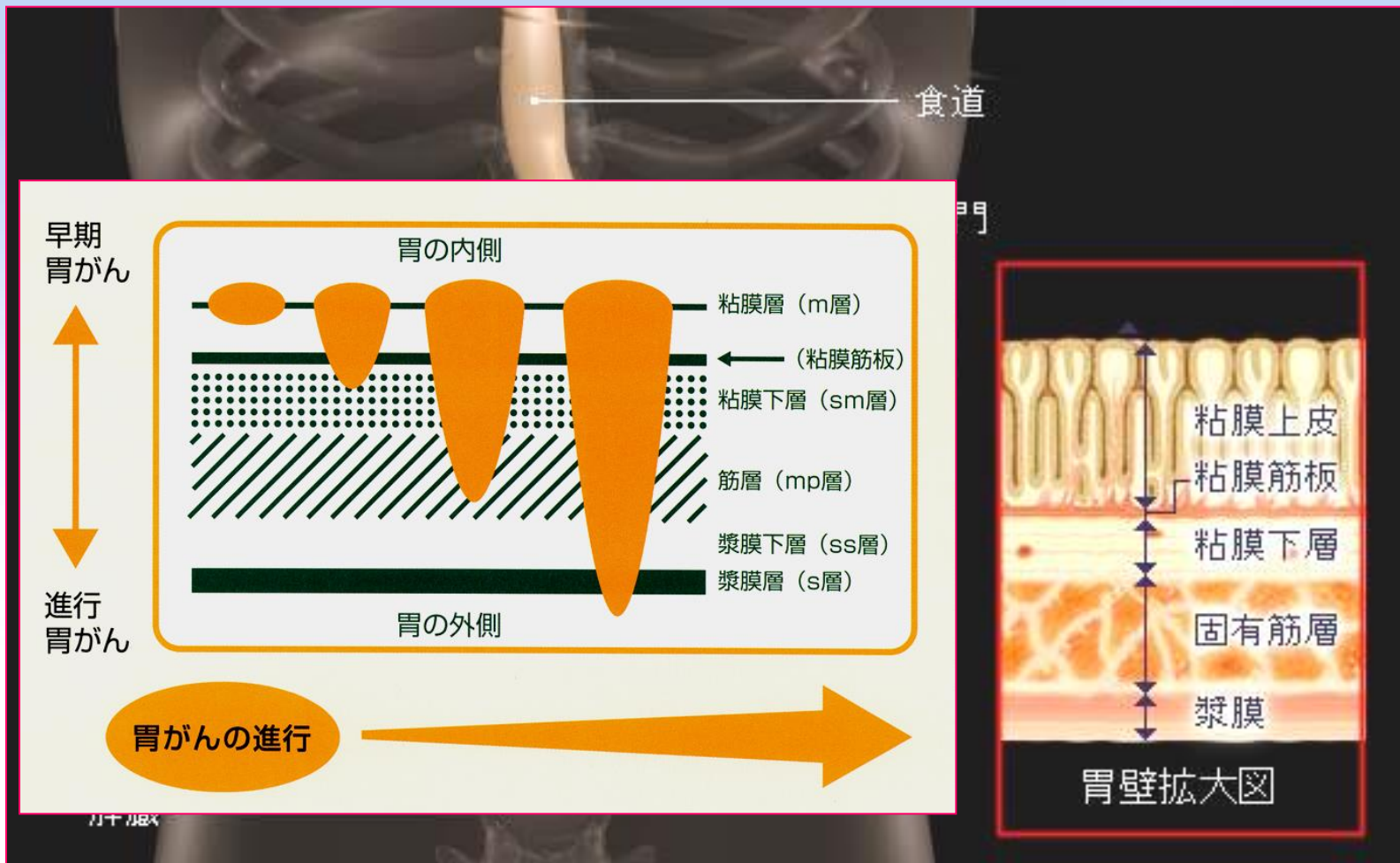
■ 子宮頸がん

■ 大腸がん

■ 乳がん

■ 肺がん

胃の構造と胃がんの進行度

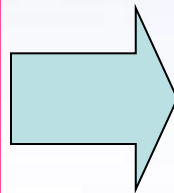


胃がん検診

胃X線検査
(効果あり)



精密
検査



内視鏡で見た
早期胃がん



インジゴカルミンという
青い色素を散布した後



わずかな陥凹が色素によってくっきりと
コントラストがついてわかりやすくなります

内視鏡で見た
進行胃がん

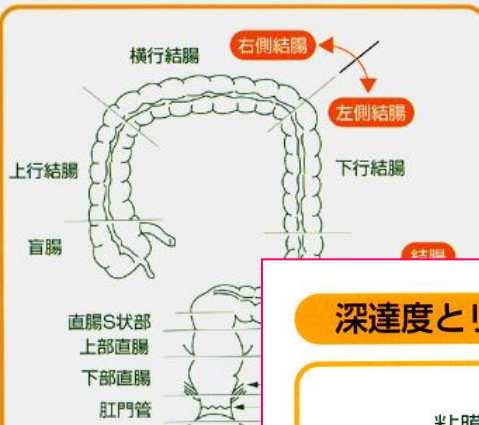


進行胃がんは、肉眼形態により
1型、2型、3型、4型に分類され
4型はいわゆるスキルス胃がん
です。

大腸の構造と大腸がんの進行度

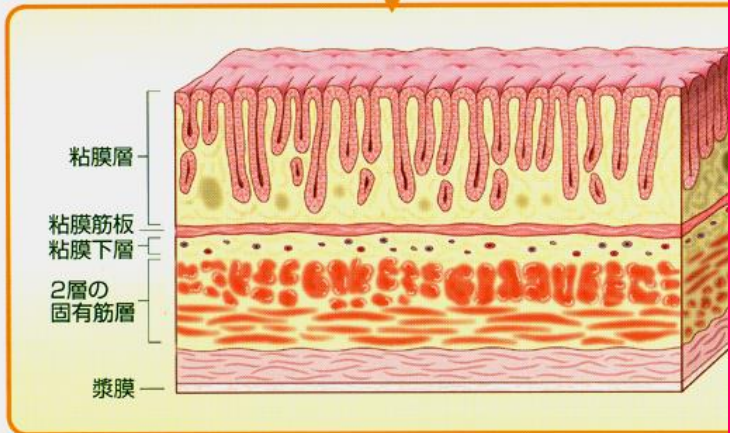


大腸部位の名称

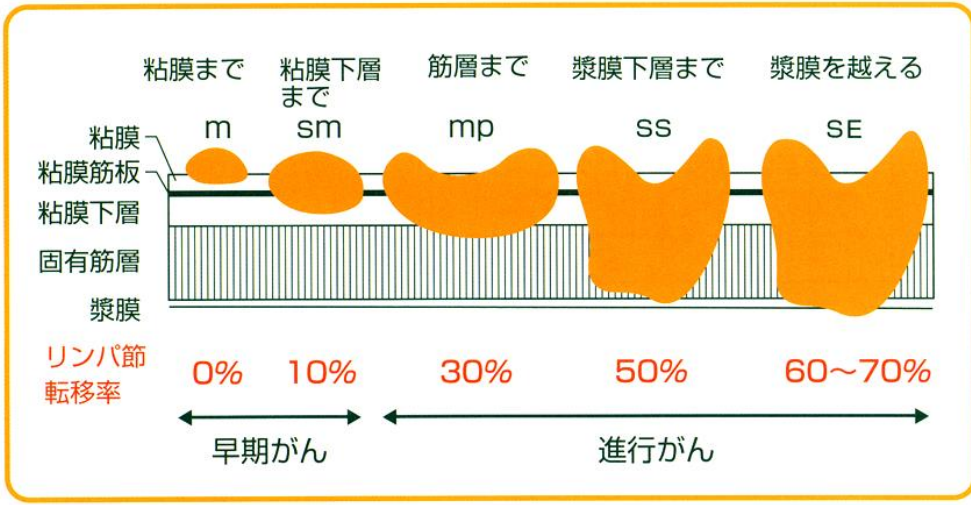


大腸がんの好発部位は、
S状結腸と直腸
(約60~70%)

大腸の壁構造



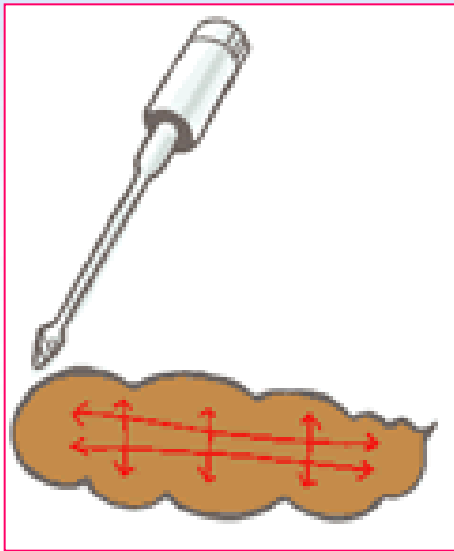
深達度とリンパ節転移との関連



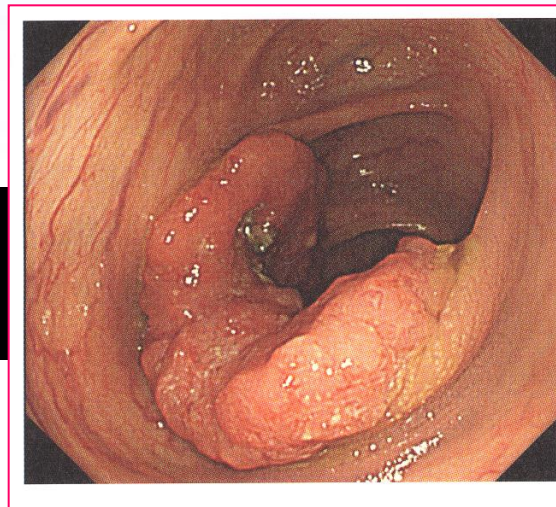
TNMステージ分類。要約すると、大腸から離れた臓器（肝臓、肺など）に転移があれば、ステージⅣ、リンパ節転移のみであれば、ステージⅢ。転移がなく、大腸の筋層を越えるものがステージⅡ、越えないものがステージⅠです。

大腸がん検診

便潜血検査
(効果あり)

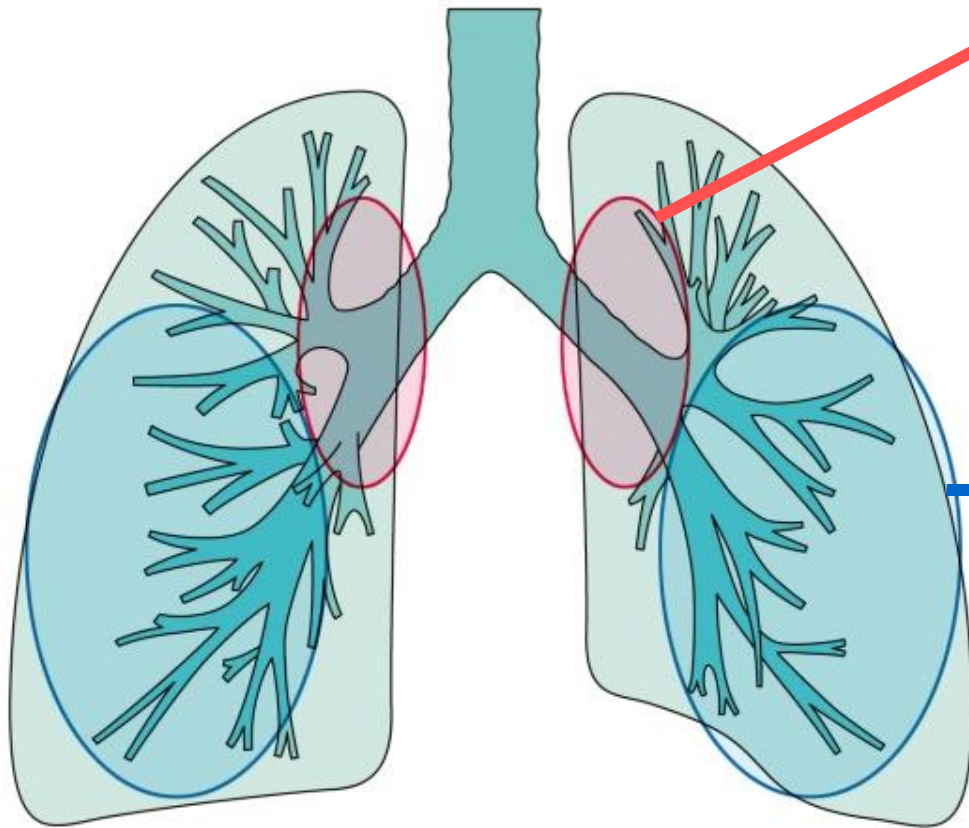


精密検査



肺がんの発生部位とタイプ

がんができた場所による分類



【肺門型（中心型）】

気管支の入り口（肺門）にできたもの
特徴：喫煙との関連が多い
血痰が出ることもある

レントゲンに写りにくい
喀痰に出やすい

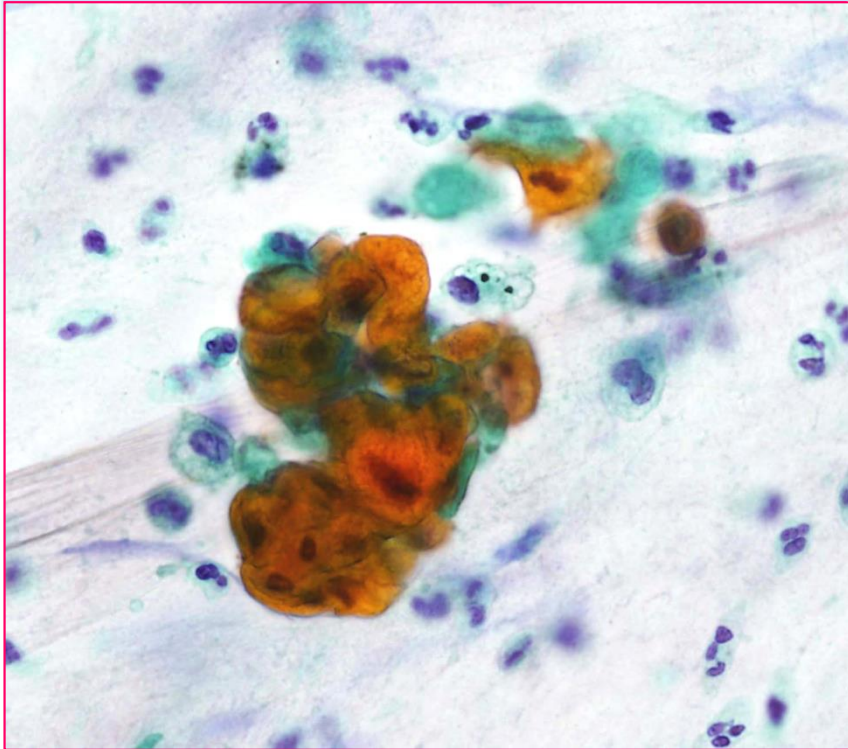
【肺野型（末梢型）】

肺門から遠いところ（肺野）にできたもの
特徴：喫煙との関連が少ない
自覚症状が出にくい

レントゲンに写りやすい
喀痰に出にくい

肺がん検診

胸部X線検査＋喀痰細胞診
(効果あり)

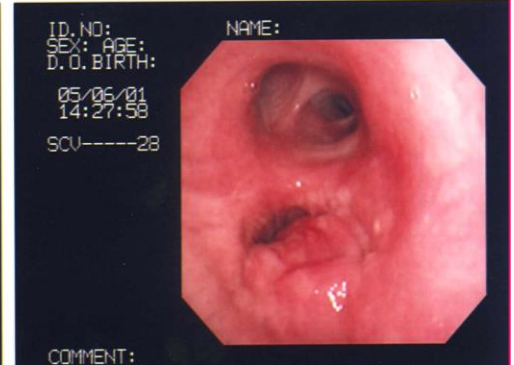
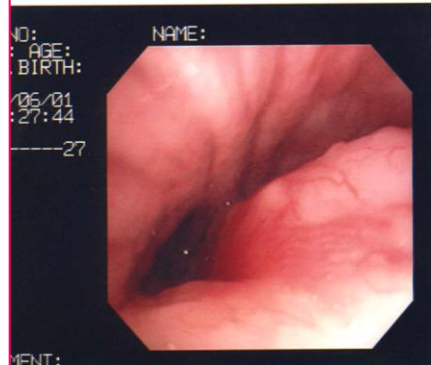
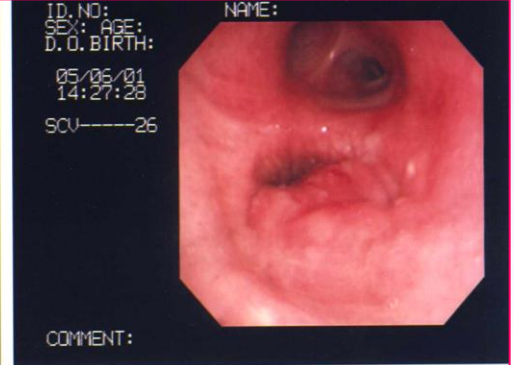
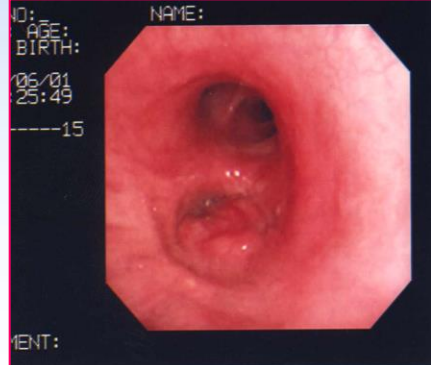


■ CT

■ PET

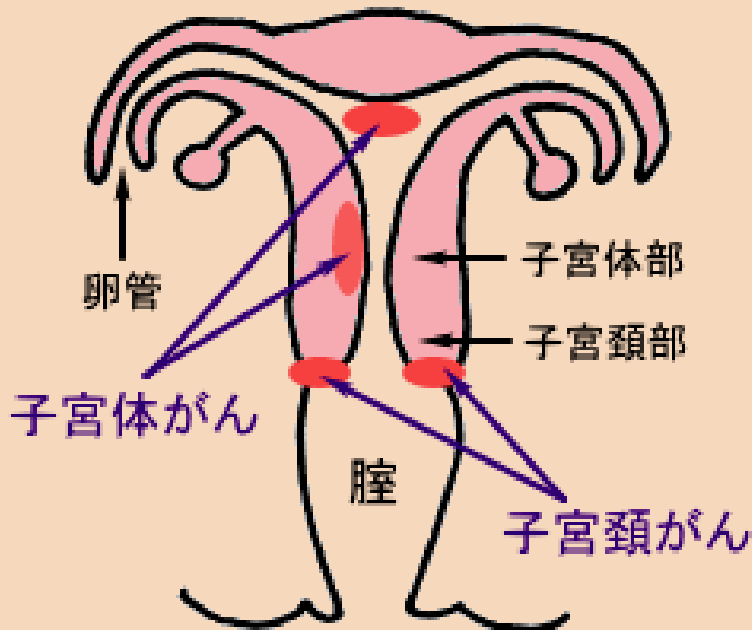
■ 気管支鏡検査

精密



子宮の構造と子宮がん

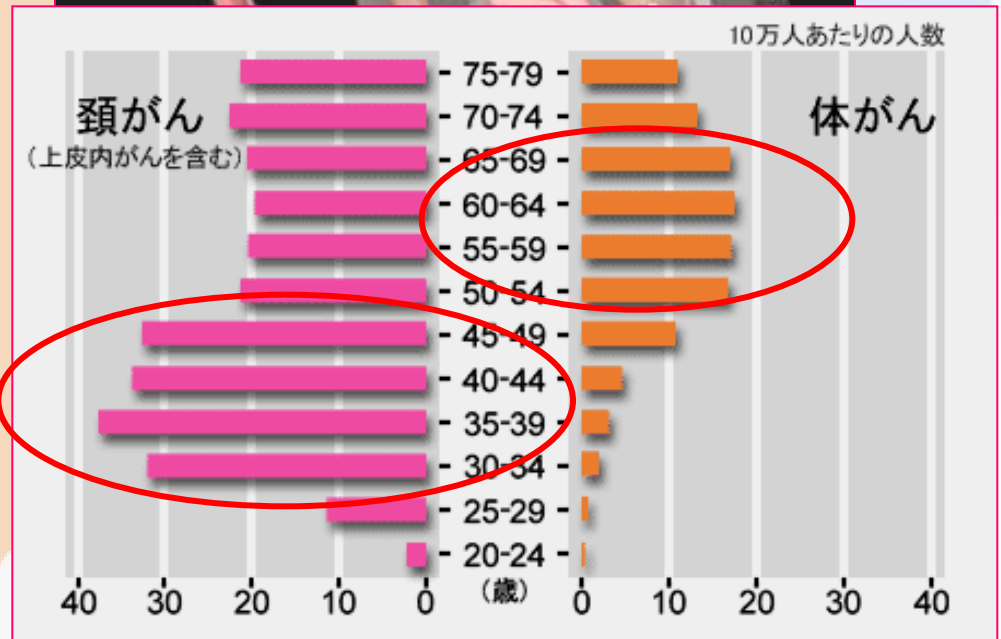
子宮がんのできる場所



子宮 卵管 卵巣



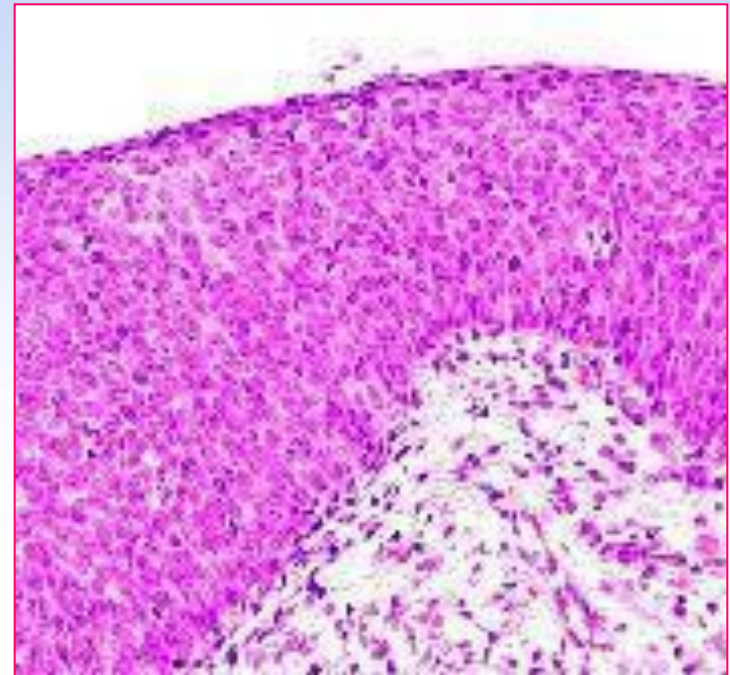
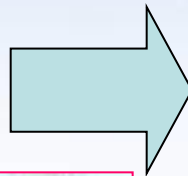
部位別・年齢別にみた子宮がん発生率



子宮頸がん検診

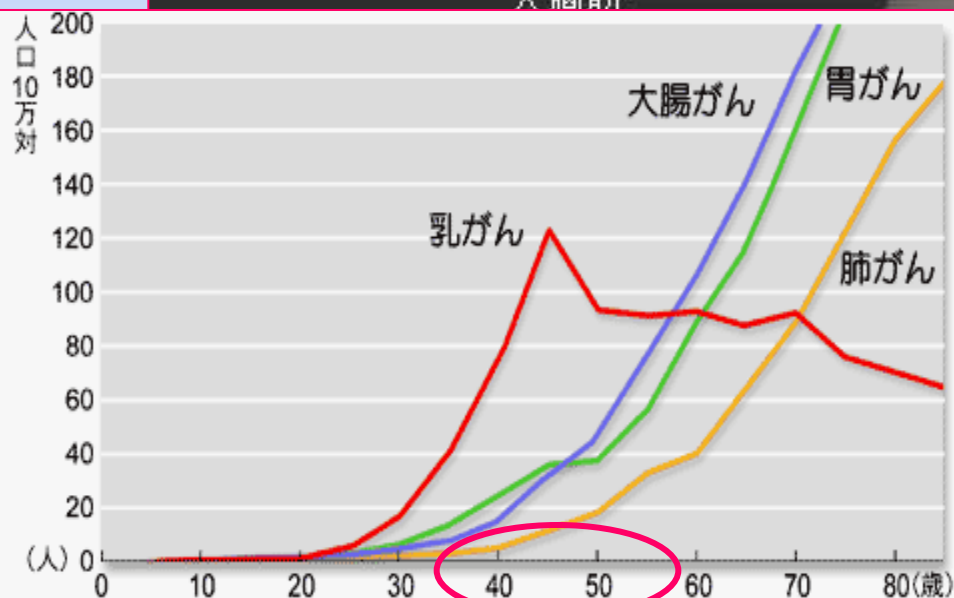
細胞診検査
(効果あり)

精密
検査



乳腺の構造と乳がんの発生

女性の部位別がん発生率



乳がんの発見状況

総数	14,749	
自己発見	10,878	73.8%
検診(自覚症状あり)	845	5.7%
検診(自覚症状なし)	2,169	14.7%
その他	713	4.8%
不明	144	1.0%

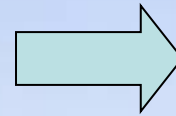
※年々検診で見つかる乳がんが増えています

出典：日本乳癌学会：2004年次症例

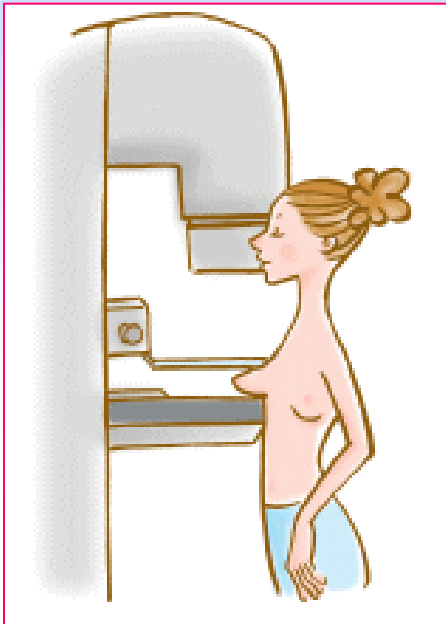
乳がん発症のピークは、
40~50歳代

乳がん検診

視触診+マンモグラフィ
(効果あり)



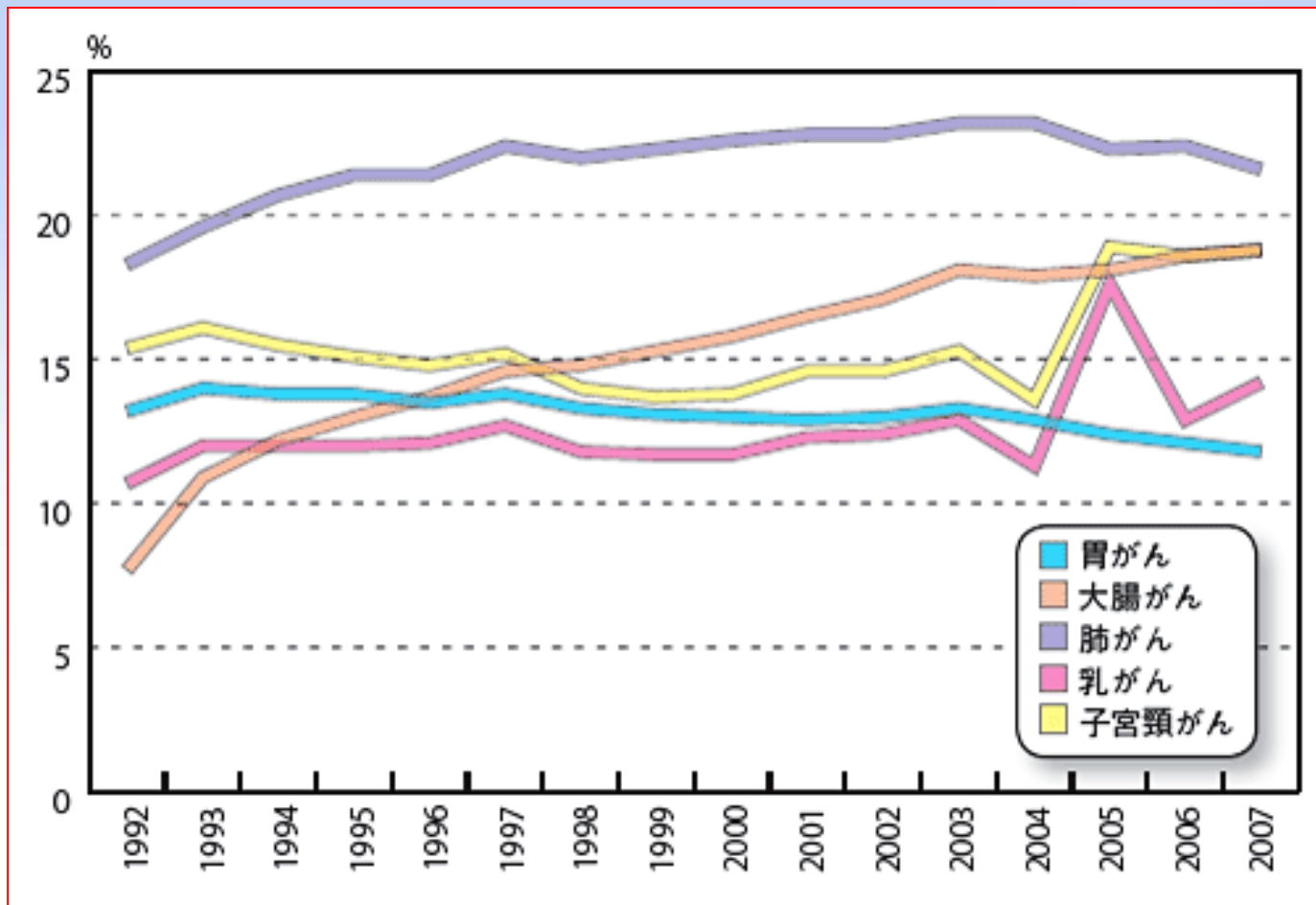
精密検査



- 超音波検査
- MRI
- CT
- 穿刺吸引細胞診



低い「がん検診」受診率！



(国立がん研究センター・がん対策情報センター「がん情報サービス」ホームページより引用)